

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立有功小学校
校長氏名	道本 美月
作成日	令和5年2月17日

1 教育目標

未来を生きぬく子の育成 「やさしい子、学ぶ子、たくましい子」

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	食に関する教育の推進	地域とともにある学校
指標	・全国及び県の学習調査の無回答率が5%を下回る。 ・「学校は子供にわかりやすい授業を工夫している」について保護者アンケートの肯定的な評価が90%以上	・学校が楽しいと感じる児童の割合が90%以上 ・いじめ解消率100%	・朝ごはんの摂取率(児童100%) ・年間3回行う生活リズムチェックの個々の達成率の向上	・保護者アンケート「学校の様子がよく伝わった」について肯定的回答が85%以上
重点目標 【P】	◎基礎・基本の確かな定着 ○家庭学習の定着 ○読書活動の推進 ○教師の指導力の向上	◎身のまわりのいじめや差別にすどく気づき、人権を守ろうとする子どもの育成。 ◎いじめの未然防止と早期発見	◎食と健康を関連づけ、自分の生活と結び付けて考える子の育成 ◎基本的生活習慣の確立	◎家庭・地域との連携充実 ○中学校校区間における連携の推進
取組の状況 【D】	基礎・基本の定着を通して確かな学力を育む工夫を各担任で行っていて最後まで粘り強く取り組む力をつけている。 校内研修を実施して授業の相互参観を行って授業に対する取り組みを行っている。	児童との個別面談を行いじめの未然防止と早期発見を図ることが出来た。また、いじめアンケートを活用して個々の児童に対応しいじめの解消を図った。道徳科の授業を通して対話的な学びを設定して豊かな心の育成を図った。	食育の研究を柱にしているので、各学年の取組の成果が出て、学校アンケートでは「朝食を食べている児童」は96%であった。また、生活リズムチェックを行うことで児童も保護者も基本的生活習慣について意識をすることが出来ている。	・今年度は学校HPを活用して学校の様子を知らせる努力をした。育友会、地域、中学校との連絡も密に行うことが出来た。
取組の成果と課題(評価) 【C】	・指標の「学校は子供にわかりやすい授業を工夫している」については92%の保護者が「そう思う」児童は99%が「授業がわかりやすい」と回答している。・学力テストの無解答については概ねどの設問でも0%であったが、文章問題については無解答率が高い問題もあった。	・子供のアンケート結果から「わたしは、友達と仲良くしている」99% ・保護者アンケート結果「学校は、いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」に対して88%が肯定的であったが、12%が「そう思わない」と回答しているのが気になる。	・朝ごはんの摂取率(児童100%)を達成することは出来なかったが、良い結果が出ていると思う。 ・給食についても栄養のバランスを考えて苦手なものも食べようと努力する児童が多い。	・保護者アンケート「学校は教育活動や子供の様子について保護者に分かりやすく伝えている」について肯定的回答が90%であった。しかし10%は肯定的ではなかった。
改善方法 【A】 次年度に向けての	全国学力学習状況調査、和歌山県学力調査ともに結果は国、県の平均よりやや下回る結果となっている。結果の分析では文章問題に課題があるため、基礎学力の育成について文章を正しく読み取る力をつける工夫が更に必要である。	・子供たちのトラブルの多くがラインでのやり取りやゲーム内でのことが大変多くなっているのが課題である。 ・携帯電話等の取り扱いやモラルについて保護者への啓発を計画的に行うことが必要である。	・来年度は教育計画の「食と健康」に関する指導の全体計画における児童の実態をもう少し細かく設定する必要がある。 ・生活リズムチェックの結果については児童個々の達成率だけではなく、項目によっては全体集計をすることも視野に入れていく。	・学校からの発信の他に子供自身が学校での様子や出来事を保護者に伝えることも必要だと思うが、児童アンケート「家族に学校での出来事をよく話す。」については83%、保護者アンケートも同様に82%であった。次年度は学校での取組がもっと興味関心を持ってもらえるように工夫する。

3 その他の課題

